

時ノ寿の森で出会ったカモシカのはなし

萬屋 由香子



写真 1. 道路脇に座り込んでいたカモシカ

掛川市倉真地区の山間部にはNPO 法人時ノ寿の森クラブがフィールドとしている「時ノ寿の森」がある。森林保全のための様々な事業を展開している同法人の活動の一つに、子供たちが自然を楽しみ、仲間とともに一日を過ごすプログラムがある。そのプログラムの一つ、小学校低学年の児童が主に参加する森のキッズの活動日であった2021年4月18日、集合場所近くの沢沿いの道路脇にカモシカが座り込んでいるのを目撃した（写真1）。時ノ寿の森クラブの大石淳平氏によると6時半ごろからこの状態で、数日前からの雨により足場が悪く、急斜面で滑落し、脳震盪をおこして動けないのでは、とのことだった。野生のカモシカをここまで間近で見られる機会はめったにないので子供とその保護者たちは興味津々だが、手負いの野生動物におやみに近づくことは危険なため、NPOのスタッフが、人が近づかないように注意を払っていた。傷病鳥獣にあたるこのカモシカの扱いについて中遠農林事務所に対応を問い合わせたが、日曜日のため連絡がつかず、次に静岡県くらし・環境部環境局自然保護課へ連絡をしたところ、基本的には、野生動物が自然界で怪我をした場合は、見守ることしかできない、さらに農林被害も出ているため、積極的な保護はしていないとのこと、そのまま様子を見ることになった。

子供達の活動が終わった15時頃になっ



写真 2. 駿河ほねほね団により骨格標本作製中

てもカモシカは同じ場所に座り込んでいたが、時々頭部を上下に揺らし沢に落ちてしまいそうな様子が見られるようになっていた。同日16時頃、活動終了後に残っていた子供達の目の前でカモシカが沢に落下し、直後に大石氏が死亡を確認した。その後、筆者が大石氏から連絡を受け博物館でもらい受けることが可能かどうか、また自然博ネットの高山達子氏に博物館での受け入れが可能かどうかを確認し、両者から快諾していただいた。翌日4月19日、天然記念物であるカモシカの取得には自治体の文化財担当課を通して環境省への申請が必要であるため、掛川市の文化・スポーツ振興課文化財係の方の立ち合いのもと、カモシカを筆者の車に乗せ速やかに博物館へ搬送した。

このカモシカには出血などの外傷は見られなかったが、腹部や肛門付近などにダニ類が非常に多く付着していたことに驚いた。本年は森の中でも例年になくダニ類が多くみられていたので、それを反映した状態だったのだろう。

現在、このカモシカは駿河ほねほね団により骨格標本化が進められている（写真2）。多くの人が見守る中、残念ながらカモシカの命は失われてしまったが、様々な巡り合わせで学術標本として博物館に収蔵されることとなった。骨格標本が完成したら、今回関わった様々な方、特に子供達に見てもらえることができればよいなと思う。